

## モリテックスの事業展開



企業レポート

大塚 喜 弘\*

### Developing Business of Moritex Corporation

**Key Words** : 光ファイバ, 画像処理機器, 光通信デバイス, バイオ機器, レーザーマニピュレーション  
Fiberoptic System, Image & Optical System, Optical Communications Devices,  
Bioscience Instrument, Laser Manipulation

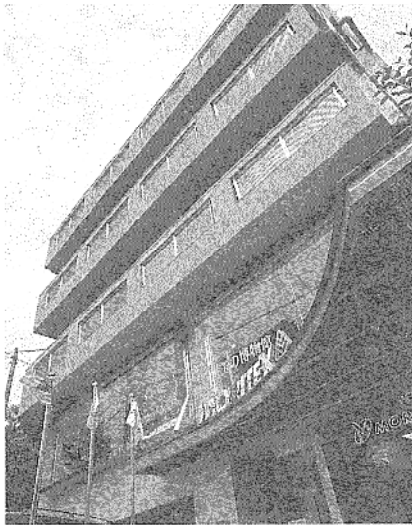


写真1 株式会社モリテックス

### 1. 会社概要

名称：株式会社モリテックス  
英文名称：Moritex Corporation  
本社所在地：〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前三丁目1番14号  
設立：昭和48年(1973年)2月  
資本金：935百万円  
代表者：代表取締役社長 森戸 祐 幸  
年商：9,009百万円(平成10年3月期)  
従業員数：275名(平成10年9月現在)



\*Yoshihiro OHTUKA  
1934年4月25日生  
大阪大学大学院工学研究科修士課程  
修了  
現在 北海道大学名誉教授,  
(株)モリテックス 先端技術研究所,  
所長, 工学博士, フォトニクス  
TEL 045-913-5808  
FAX 045-913-5805  
E-Mail miatohyo@ruby.famille.  
ne.jp

営業品目：光ファイバ, 画像関連機器, 光通信関連機器, バイオ関連機器, 機能性商品, 及びこれらの関連製・商品の製造販売並びに輸出入

事業所：

営業 国内10支店・営業所, 海外2関連会社  
(U.S.A., U.K.)  
製造 事業所3(玉川, 浦和, 矢板),  
関連会社3  
研究所 横浜技術センター, 先端技術研究所

### 2. 主な沿革

当社は, 昭和48年2月 現代表取締役社長 森戸祐幸が「光ファイバ及び応用機器」の開発製造・販売を目的に設立。以来高度技術(ハイテク)指向の開発型企業とし産業用光ファイバ照明・画像関連機器・光通信関連機器を中心にオプトエレクトロニクスや電子・電気及び半導体などの成長産業との関連において順調に業務の拡大を続けております。

### 3. 事業の内容

#### 3.1 製・商品分類

(1) 光ファイバ製品及び関連機器

…売上構成比35%

ガラス光ファイバ, 石英光ファイバ, プラスチック光ファイバ, HPCSなど多種の性能が異なる光ファイバの中から, ユーザーの使用目的に応じて最適なものを選び, 加工製品化したもの及びこれらと組み合わせて使用される光源装置であります。これらの製品は, CCDカメラ画像入力照明, 光センサー, 光通信, バイオ・メディカル関連, 光硬化装置, 各種照明・ディスプレイ等半導体製造装置業界や電子部品実装機器業界, 精密・微細加工装置業界

等、広範囲にわたる市場で使用されております。

#### (2) 画像機器 … 売上構成比 25%

主に光ファイバ CCD 顕微鏡で、その発展としての肌や毛髪診断システム用の小型タイプや学校などでの教育用ハンディタイプの CCD スコープ、FA 用の画像入力装置、歯科や口腔検査用のデンタルスコープがあります。これらに適用する MML (マシンマイクロレンズ) や光学部品なども取り揃えております。

#### (3) 光通信関連機器 … 売上構成比 10%

光通信網の一般化(加入者系への発展)が進められている中で当社が開発した一連の自動調芯システムで、直径数ミクロンの光ファイバへ数秒で自動的に光学的な軸合わせを行う調芯装置、及び調芯した位置でのレーザ溶接や紫外線硬化樹脂による固定を行う装置であります。更に、インターネットの普及などに伴い、伝送容量を増大する必要性が高まっており、WDM などに対応すべく光導波路、レンズ、光学機能性部品、FBG(ファイバブラッググレーティング)など多くの光通信部品の調芯、組立ロボットに発展しております。加えて、これらの装置で組立・製造した光部品の開発・製造・販売に注力しております。

#### (4) バイオ関連機器 … 売上構成比 5%

分析用前処理ロボットと、これらに関連して開発した一連の新薬創薬システムであります。製薬会社の新薬開発とその製造には、多数の見込サンプルを同時に製造する全自動合成装置、サンプルの薬理効果シミュレーションによるスクリーニング装置、生体内薬理効果検証のための関連装置、製品設計や品管部門における分析前処理ロボットなどの一連の自動装置がその効率化のために不可欠のものであります。

#### (5) その他製・商品 … 売上構成比 5%

高純度石英、精密球・標準粒子等をはじめとする機能性製・商品、並びに超磁歪材料・デバイスなどの新素材分野については、その供給元を世界に広く求め、海外品を含む商品群の紹介及び取扱を進めております。更に、レーザマニピュレーター及び近接場光学関連などの新規開発製品の育成を行っております。

### 3.2 特徴

#### (1) システム展開

当社の事業展開の特徴の一つに、単体ビジネスの

追求よりも複数の製品を組み合わせたシステム製品を志向していることがあげられます。つまり、各種開発のコンセプトにおいても  $1 + 1 + 1 = 3$  ではなく  $10$  にすることに務め、各々の製・商品の関連性・連続性を引き出し市場ニーズが求めるものを用意、提供してゆく姿勢を大切にしております。

#### (2) 球体テクノロジー

材質や使用分野区分にとらわれることなく、多種多様な球体製・商品を取り揃えパーティクルカウンタ及び血液抗体検査用など用の数ミクロンオーダーの精密球から、産業用セラミック及び超硬球、光学用球レンズ、ビーズ・アートガラス球に至る商材を取り扱うと共に、それらを活用した製品群の開発、販売を展開しております。

### 3.3 重点テーマ

#### (1) デジタル化対応

本格的なデジタル化を向かえ各種機器及び装置のデジタル化対応と、これらから取り出されるデータのネットワーク化などを実現すべく取り進めております。

#### (2) 高度情報化対応

1) 光通信関連及び 2) 光メモリー関連を中心に来るべき高度情報化社会に於いて求められる数多くのツール(光ファイバ及び高機能光部品)の実用化に向けて意欲あふれる事業展開を推進するものです。

## 4. 研究開発

### 4.1 研究開発活動

次の二つの基本方針をもとに取り組んでおります。

- 1) 光ファイバ、光技術、画像技術、精密機器技術など従来培った技術をベースにして、より市場ニーズにあった新製品を作り出す。
- 2) 社会的な新しいニーズ、技術的なシーズをもとにして、先端的な製品を開発する。

目標とする市場としては、従来の主力製品であった①光ファイバ照明から発展したFA(ファクトリーオートメーション)分野、②自動調芯装置や、光モジュール等光通信部品による光通信関連機器分野、③製薬や化学業界を対象とするバイオサイエンス分野での事業展開を三本柱にすべく関連製品の開発を行っております。

### 4.2 先端技術研究所

次世代の製品を作る技術としてレーザマニピュレーション、近接場光学技術、超磁歪合金応用(アクチュ

エータ)の3テーマの研究を実施しており、高度新技術による新製品の開発に取り組んでおります。

### 5. おわりに

弊社は設立以来25年以上を経過したところであ

りますが、設立当所の目的が“光ファイバ及び応用機器の開発製造販売”であった事を想起しつつ、事業が順調に拡大してきたことを紹介させて頂きました。21世紀をまじかに控え、一層の発展を持続するよう全社挙げて努力しております。

